



ソウル特別市看護協会交流事業



期 間：平成 24 年 10 月 29 日（月）～ 11 月 3 日（土）

来日者：ソウル特別市看護協会 会長他 12 名

交流事業目的：両協会が相互交流を行うことで看護分野での以下の協力活動を推進する。

- 1) 協会運営に関連した情報交換
- 2) 協会会員間の交流
- 3) 国際看護活動の共同実施

今年度のテーマ：「災害看護」

昨年度の東日本大震災を体験して、何を学び、どう乗り越えてきたのか、そして今、災害に備えてどう取り組んでいるかについての情報提供と意見交換を通して情報を共有するとともに、災害看護分野における両協会の活動に役立てる。

研修関連スケジュール

10/29(月)	14:00～16:30	東京都看護協会活動の紹介 会館案内
10/30(火)	10:00～16:30	日本看護協会の災害支援への取り組み 東京都看護協会の取り組み 石巻港湾病院-東日本大震災の体験から 災害時の感染症対策
10/31(水)	9:50～16:00	都立広尾病院-災害医療への取り組みについて 施設見学 新天本病院-高齢者のトータルケアの実際について 病院 高齢者ケア施設等の見学
11/ 1(木)	10:00～19:30	文化交流 東京スカイツリー見学 歌舞伎鑑賞

交流の中から

第 1 日目：東京都看護協会活動について紹介をした。

ソウル特別市看護協会参加者からは、事業内容や会員増加に向けての取組などについて、活発に質問が出された。

ソウル市では、会員数は約36,000人、約50%の入会率とのことだった。東京都は会員数約44,000人で、約40%程度である。入会率をどのように増やしていくかが共通の課題である。ちなみにソウル市でも男性看護師は、全体の約5%位いるとのこと、これは日本とほぼ同じである。



1 日目：歓迎のあいさつ

第 2 日目：今回のテーマである災害看護について、日本看護協会の取組、東京都看護協会の取組、石巻港湾病院の体験から、災害時における感染管理などについて震災時のデータに基づいて説明をした。

韓国では、地震や津波災害は殆どなく、身体に軽く感じる程度の地震がたまにある程度で、病院関係で一番必要なのは、大事故（交通事故など）や火災発生時の対策だと言われていた。



2 日目：災害看護

第 3 日目：午前中は都立広尾病院で、広域災害拠点病院としての役割や、災害対策・防災教育、東日本大震災時の対応等の説明を受け、その後ヘリポート・救急外来・ICU等を見学した。

午後は、多摩ニュータウンの新天本病院および関連施設・地域コミュニティを見学した。

先行的に行われてきた「先行指標に基づくコミュニティケアの創造」・「地域包括ケアシステム」の考え方は、ソウル市でも高齢化が進んでおり、共感を得るものだった。



3 日目：新天本病院リハビリ室

第 4 日目：東京スカイツリー見学、新橋演舞場で歌舞伎鑑賞をされ、第 5 日・第 6 日目はソウル市の方々に組まれた日光ツアーで、美しい紅葉と温泉を満喫してこられたとのことだった。

11 月 3 日、羽田国際空港では名残を惜しみ、Gate から何度も振り返り手を振って、帰途につかれた。

国は違っても、「人々の心」「看護の心」は通じ合うという印象が大きく残る時間だった。



3 日目：都立広尾病院ヘリポート

ソウルからの手紙

嶋森好子会長様

日本滞在中、東京都看護協会の皆様の方々に対する思いやりやご親切に深く感謝申し上げます。今回、災害看護及びリハビリテーション看護について、講師の方々のご提示くださった実例や実体験を通して、多面的（多次元的？）に学ぶ貴重な機会となりました。また、日本の伝統芸能も大変美しく、興味深いもので、堪能させていただきました。過去数年に亘り、我々の交流が順調に繁栄してきており、お互いが実際に両協会の協力関係を価値あるものと考えている（大切にしている）と確信いたします。今一度、我々皆、重ねて心からの感謝の意を表したいと存じます。来年ソウルで皆様にお会いしたいです。寒さが増すにつれ、インフルエンザが世界的に流行しています。インフルエンザの季節、どうぞお体ご自愛ください。ではまた

Horan Park (ソウル特別市看護協会 会長)



出合いを大切に